

視察・研修報告書

視察・研修先	実践（体験型研修） どう創るチーム議会
日 時	2024年9月7日（土）13時30分～17時
場 所	大野城市社会福祉協議会 2階 学習室
テーマ	「対話する議会・議員」を目指して <small>サウンド</small> 「SOUNDカード」の議会での活用法 「見える化」×「言えるか」 輝け議会対話による地方議会活性化フォーラム
対応者 (講師)	佐藤 淳氏 青森大学社会部教授 早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員
概 要	
<p>「対話する議会. 議員を目指して」 SOUND カードの議会での活用法 青森大学社会学部 早稲田大学マニフェスト研究所 佐藤淳氏</p> <p>名札を使用する その時は、本名ではなく、ニックネームを、記入一つで、仲良くなる</p> <p>アジェンダカードを使って テーマ 話題 場の活性化 言える化ツール 自分が話したい問いを選ぶ 意外と色んなことを話せる 『なんでも言えるみんなでつくるをあたりまえに』</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地方自治体の人材開発、組織開発 ● 地方議会改革 ● 市民協働、公民共創のまちづくり <p>カードを使うことにより、会話がうまれる 意見交換会 東明館高校「探究の授業」にも使用 対話による 地方議会活性化フォーラム</p> <p>議会と市民との会話 ↓ 議員同士の対話 職員間討議 ↓ 議会からの政策提言</p>	

↓

住民福祉の向上

対話「ダイアログ」とは？

あるテーマのもとで

お互いの意味付けを確認し「新しい関係性」を作り出す

客観的事実

意味付けが大切

見えた方が違う

確認し合うこと

対話、自分の意見が間違っているかもしれない

誰も正解はわかっていない時代

対話して新しい時代を作っていないといけない

意味付けがとれだけ大事か

誰もが正しい

カード5種類ある 頭文字をとって

SOUND CARD (サウンドカード) とは

話し合いを活性化させチームの目的達成を支援するツールです。使い方は簡単。多種多様な「質問」が書かれたカードを自由に選んで話すだけ。対話に慣れてないメンバーでも気軽に参加できます。カードがあればオンラインでも対面でも活用可能。2～6名程度の面談やミーティングに有効です。「心理的安全性」を高め「目指したい方向性」を見える化し「具体的な行動」を決定するためのミーティング進行補助ツールです。

考え方の流れ、課題解決となる

<SOUND CARD の使い方>

ステップ① Agenda (アジェンダ) **ダイアログアジェンダの選定**

カードをもとに議題を何にするのかを話し合い決定します。

ステップ① Status (スタートス) **現状の見える化と安全な場づくり**

問いを頼りに今、起きていることを共有しながら、話しやすい雰囲気を創ります。

ステップ② Outcome (アウトカム) **ビジョン・アウトカムの共創**

問いを選びどんな未来を可能にしたいのかを話し合い、未来のイメージやコンセプトを共創します。

ステップ③ UnderStand (アンダースタンド) **構造とねらい目の見極め**

問いにまつわるエピソードを共有し、出来事の背景には何があるのかを話し合い、仮説をつむぎあいながらねらい目を見定めます。

ステップ④ NegativeCheck(ネガティブチェック) **抵抗/摩擦の洗い出し**

ネクストアクションを考えるにあたり、気になること、対処

ステップ⑤ Drive (ドライブ) 具体的な行動内容を決める

カードを選ぶ

発表の順番を決める

1分程度で話す

聴き手は静かに

- ・行うことにより、グループ同志で仲良くなる
- ・市民との意見交換会 カードを使うとスムーズに行く
- ・予算決算常任委員会で、議員間討議

市民との対話 テーマ「地方議会のありたい姿」

- ・現状を話す
- ・その後、意見交換会
- ・最後は、市民皆様の意見を書いたのをまとめて、市に提出する。

書くことは良いこと

政策提言していく

どうやって市民を巻き込んでいくか

少しずつステップをあげていく

今ここの気持ちを話す

チェックアウトにて、終了

所 感

ワールドカフェ方式で、グループにわかれて座った。初対面の方ばかりで、大変緊張した。目の前のカードを手にとって思い思いの気持ちを、話してくれと言われたときは、正直びっくりした。難しい。急に言われてもと思ったが、カードを手にとりありのままの気持ちを発表した。そのカードはSOUND CARD というもので、5つフェーズに沿って対話を進めることで、チームが自律した上で目的や意義を共有・合意しチームとして共進化していくことが可能になる。そして、他の議員の意見を聴いて、書記役など順番に回したりすることにより、少しずつ皆さんと共感を、持つことができた。同じ議員ということで、他市の自治体の様子など、活発に意見交換を行うことができた。いつの間にか、緊張がほぐれていた。とても勉強になった。SOUND CARD の魅力を知ってもらい、今後活用していきたいと考える。

-作成者 岡部 かおり -